

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ	
-----------	--

② 施設・事業所情報

名称：ちゃいれっく新作保育園	種別：ちゃいれっく新作保育園	
代表者氏名：小田桐 雄太	定員（利用人数）：60名（61名）	
所在地：〒213-0014 川崎市高津区新作4-8-11		
TEL：044-789-5665	ホームページ： http://www.procare.co.jp/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2018年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社プロケア		
職員数	常勤職員：16名 非常勤職員：6名	
専門職員	（専門職の名称） 名 看護師：1名	
	園長：1名 栄養士：2名	
	主任：1名 調理補助：1名	
	保育士：12名 事務員：1名	
	保育補助：2名 用務員：1名	
施設・設備 の概要	（居室数） （設備等）	
	保育室：6室 園庭：有	
	トイレ：5ヶ所	
	調理室：1ヶ所	
	事務室：1室	

③理念・基本方針

<p>保育理念 『大地にがっしり根を張る大樹となってほしい』この子らはどんな葉を茂らせ、どんな花を咲かせ、どんな実をつけ人を笑顔にするのだろう。子どもが<大樹>と育つための、その基となる <根っこ>を育てるお手伝いをしたい、そうプロケアは願っています。</p> <p>保育方針 <こころ><からだ><生活>の三位一体の保育を目指します。 【こころ】 温かい「第二の家庭」を提供し、心の豊かさを育む。 【からだ】 生活のリズムを整えたり、食育の取り組みを通して健やかな身体を育む 【生活】 様々な経験を通じて、主体性と協調性を育む</p> <p>園の保育目標 1. げんきな子 2. おもいやりのある子 3. さいごまでがんばる子</p>
--

④施設・事業所の特徴的な取組

<リズム運動>

リズム運動では、毎日の取り組みとして行っている。ピアノの音に合わせて、体を動かす際に手や足の指先まで意識して動かせるように声かけを行い、繰り返し行う事で、体感が鍛えられたり、脳に刺激がいくことで、活性化されたりすることを期待し取り組んでいる。

<絵本の取り組み>

日々の活動の中で、切り替えの場面などで絵本の読み聞かせを行っている。絵本の世界を知り、絵から見えるものや語彙の獲得など、様々な面で得られるものがあります。また、保護者へ向けては、乳児、幼児に合わせて貸し出しの絵本を用意している。また、職員のおすすめの絵本を掲示したりと子どもたちの興味関心を広げられるようにしている。

<食育活動>

各クラス毎月実施できるように計画。食材に触れる機会や、食に関しての日本の伝統文化を知ること、実際に野菜を育てて収穫することなど、様々な体験や経験を通して食に興味をもてるように促している。

<英語教室>

2歳児以上を対象に2週に1度実施している。2歳児：20分間、3.4歳児：30分間、5歳児：40分間

外部の日本人講師による、英語の曲やイラストなどを用いて、様々な言葉があることを知るきっかけ作りをしている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年5月1日（契約日）～ 令和5年1月18日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	- 回（ - 年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)子どもを中心に保護者と連携した保育が実践されています

全体的な計画をもとに子どもの姿を捉え、個別計画を作成しています。個別計画を保護者に確認してもらい、その後の振り返りも保護者押印によって確認し、次の計画を作成しています。園長、主任が中心となり、園の保育方針に沿った保育計画のPDCAを行い、子どもに合わせた保育計画となっています。園長は、保護者と顔の見える関係を大切にし、保護者の意向に沿うよう努め、全職員で子どもを育む姿勢が伺えます。また、職員と保護者の良好な関係から子どもの自己肯定感の育みへつながっています。

2)職員の就業状況や意向を把握した働きやすい環境を整備をしています

園長と主任は職員就業状況や意向を把握し連携を図っています。毎日終業後に職員へ声をかけ、相談に応じるなど心身の状況を把握するように努めています。職員会議では、保育の質の向上について意見交換を行ったり、看護師によるワンポイント研修を実施して知識を深めるなど、職員全体で意欲的に取り組んでいます。また、職員の日々の体制表により、人員の工夫をするなど互いに協力し合って業務を遂行できるようにしています。職員の意欲向上を図りながら働きやすい職場づくりを行っています。

3) 保護者との情報交換が円滑に行われています

コロナ禍で、玄関対応だった時期もありますが、現在は園の中まで保護者が入れるようになりました。入口のすぐ右手には、保護者宛ての掲示板があり、園だよりや保健、給食だよりなどの掲示で情報提供し、園での様子を知らせています。個別の連絡帳を使用したり、廊下に職員おすすめの絵本展示がされていたり、子どもの作品も飾られています。送迎時には積極的にコミュニケーションを図り、日々の様子を伝えたり、何気ない言葉かけからも関係性を築くよう取り組んでいます。利用者調査の結果からも園の取組や対応への理解が伺えます。

4)職員全体で園運営を行う体制づくりが期待されます

園の理念や方針の実現に向けて、組織的な取組を進めていくために、中・長期計画を策定し、各項目に沿って業務を遂行しています。単年度ごとの計画に反映させながら、計画的な取組を着実に進めています。園長は職員全体で園運営を行う体制づくりが必要と考えており、中・長期計画と単年度の計画について、職員間での共有化を図りながら進めていますが、職員の自己評価から内容浸透が不十分な面が見受けられます。計画について内容の理解を深めていけるよう更なる取組が期待されます。

5)苦情解決システムの周知方法についての取組が期待されます

園の重要事項説明書に「ご意見・苦情・相談について」を記載しており、「受付方法」「相談・苦情受付担当者」「相談・苦情解決責任者」とその他の相談窓口で「第三者委員」についても明記して資料提供を行っています。しかし、利用者調査のアンケートでは「いいえ」の回答が3割ほどある状況です。保護者に第三者委員の存在と、利用できる安心感とを伝え、更に保護者周知を図ることが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価を行い、これまでの保育を振り返る良い機会となりました。園長だけでなく、園全体の職員全員が評価に携わることで、ひとつひとつ見直す機会となり、保育において再確認することができました。今回の結果を職員で確認しながら、良い評価を受けた部分は継続して取り組んでいき、改善が求められる部分は、職員とともにより質の高い保育ができるよう、取り組んでいきたいと思えます。そして、地域の方々に必要とされる園であり続けられるよう、職員一同精進して参ります。今後も引き続き子ども一人ひとりの成長に合わせた保育はもちろん、保護者の方が安心してお仕事ができるように園を運営して参ります。最後になりましたが、今回の受審にあたり、アンケート調査にご協力いただいた保護者の皆様に感謝いたします。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり